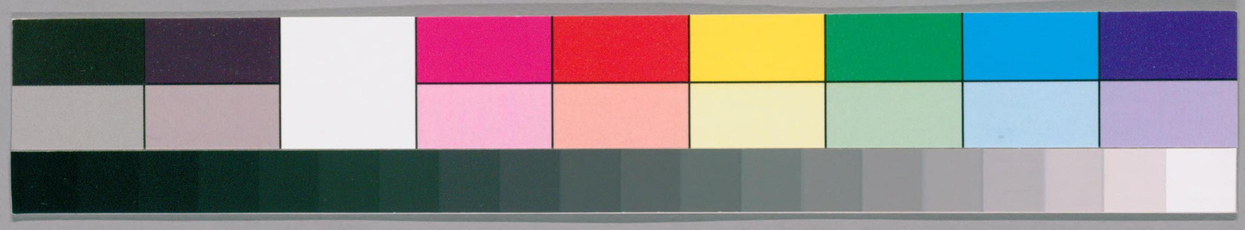
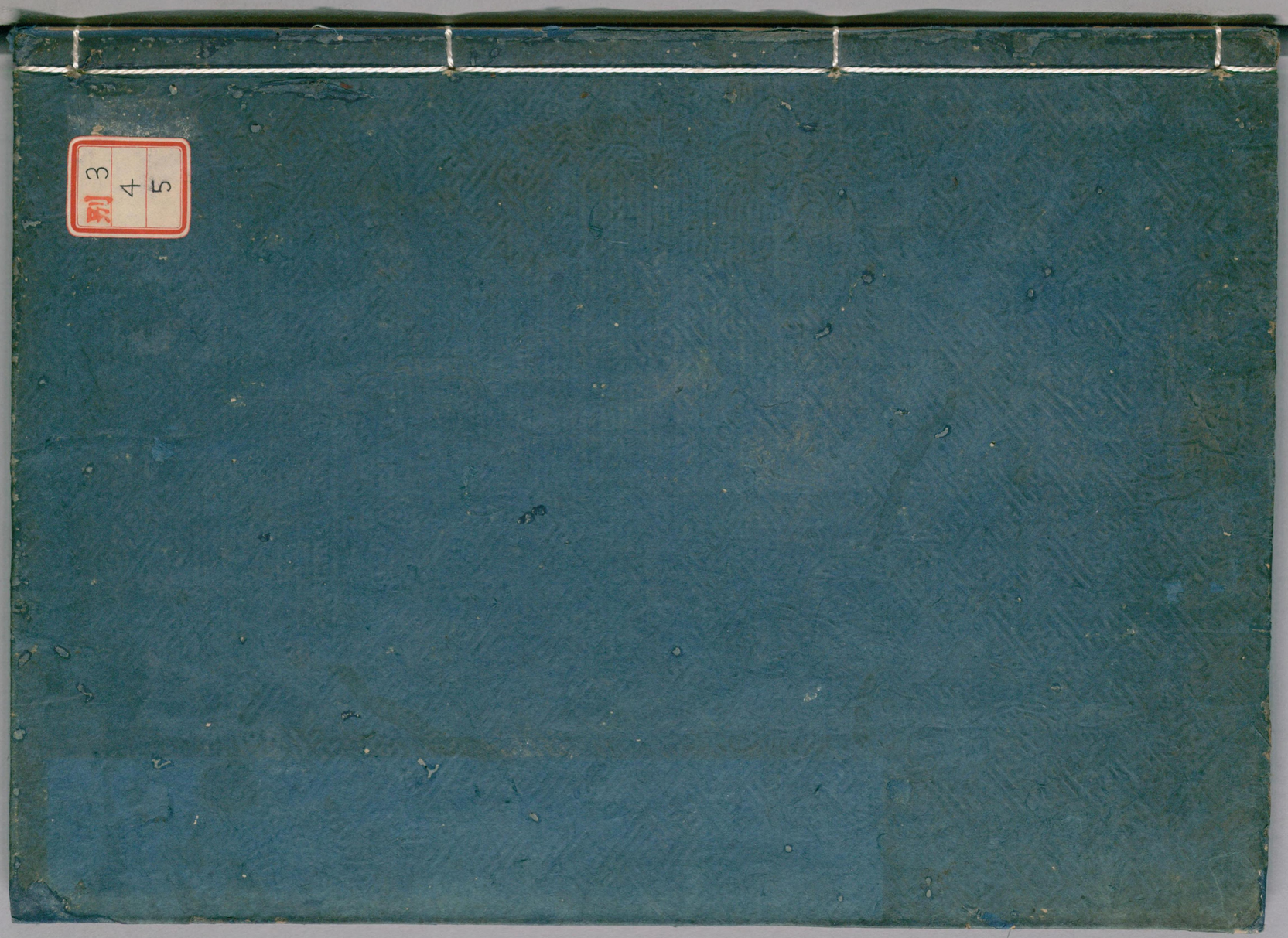




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5

3.633

冬

初冬　　時雨　　時切　　辺花
改　　茶花　　落葉　　寒草
霜　　雪　　霙　　霰
氷　　水鳥　　氷柱　　綿代
鷹　　神楽　　冬籠　　炭
埋火　　衾　　年忘　　紙子
寒梅　　冬籠　　雑煮　　節分
年内立春　　歳暮

俳諧書二酉精舎蔵
萩原乙彦
鷹巣文庫
国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5
ガラス使用

小町踊第四

冬

物冬

雲ハ多くちりやまふ神書月　玄札

月よこそ神の数なれ老りふ　龍徳

むら雲ハ乃清水やさ風ふ神　同

と初よりい那ぎ正一おう神安月　正文

冬ふきを小春や哀れ花ふ月　正則

雪花も冬よりつつむ小春ふ　方孝

同小乃そ冬ハ春り哀相　意翁

か春ハいろく囲炉裏の火花ふ　大伝
貞固

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

雲跡乃方便なるそらもや雅秋よ　春行

時雨

しぐるゝや河向の茶屋の猿乃庵　一正

炉の雲も松とひまもる小川哉　宗祐

天気よへのみつなをたり村河面　重頼

うみいつれ河面乃雲や水くらき　幸和

二九ありもまて暮にたり一河面　知徳

河面うやみつもねこすみ柿子哉　同

山風乃いそけしまろうれ河面うれ　同

山くと河面もれ初る三面忌の追善

さゝ年乃ふるまゝやこ一まろけ　元清

めくり来て河面や雲も水車　不競

お百度と河面もそ雲や神後山　重則

河面ていそいそき雨乃雲も星　重綱

去ぬりいはをとるしうこれ哉　重賢

さゝれ乃名も氣之れなりかし　英種

引窓やひきそひそもしる河面　貞固

八雲より神もひやかしれ　常長

深のこれ河面や松のうこいさ　嶺利

神をさそ河面うれ旅のうち雨立　常辰

国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5

ガラス使用

河面こそ旅立ち給ふ秋の空
川音もこゝれや先めづる事
袖いかにさまでとのたまふれ
松風乃河面やうそ琴の曲
河面もや遥に鹿なくさ末の紅葉
雲風にたゞ空耳に聞
一先そめてとも河面や
とゞまるいかさまよ河面
是非押つかさまでとのたまふれ
三先そりてとも河面や紅葉山
とゞまるいかさまよ河面
是非水もみまでとのたまふれ

同　為親
同　政之
同　家雅
友貧　公言
同　有哉
同　親信
同　信盈
同　聖

川音や耳にもぬ物河面
廻文の水やこゝれと奇妙
高なるね聞ゆる紅葉
めでたき事成河面や
夕べもとこゝろ一対
川音いかにとこゝれ
音いかにとこゝれ紅葉
音いかにとこゝれ紅葉山

同　為親
同　政之
同　家雅
公言　公言
同　昌房
同　同
三圓　三圓

菜の切
口切て河面に
炉の釜のこゝろ
あるじ小春哉

徳元
不卜

国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5
ガラス使用

名ゝり
世の中に絶て桜や小春にて咲
返名人そうき木ゝに二度
名木も老くい愚ゝや
等木を猫廻ゐ
小春ゝはゝふうにき
そうそやといひ云
冬木より咲うれ
雪も山もさけ一つ

元知
玖也
有哉
正利
冥安
業政
寺松 俊康
棟善

君やうん紅や雪ゝ日ゝ清ゝれ
くゝこれいあすゝ雪ふゝて散ゝ
なゝひきゝや雪ゝゝゝて散ゝ
口切ゝうゝゝゝと壷ゝ
口きりやこれもとやおの鶯ゝ
茶ゝ湯名とまてゝゝ郷ゝ
口切や炉ゝもりゝゝく床乃花
大ゝくの茶ゝ口切もゝ小春ゝれ
口切の茶も花香あるゝ
口きりゝ茶ゝ久ゝうやゝ心

茄巴
松尾 弘次
不知
貞富
冥真
宥親
政之
昌房
主圓

萬葉おらくや沖法乃うへ義　雲泉院　良仙
老の名れ納うりまうか　資方
廻文やん乃云葉れ花　昌房

歌

こゝつまう実れ月実乃日永餅　三圃
白雪やめこみる紅砂糖もち

菜花

はるかある紙先袋菜乃花香れ　正直
菜れ花をもりてう魚ね昔う郎　尾刀　重行

菜れるないのまて月また匂ひる　一武
菜乃花や橋なるまつひる　定親

落葉

散るくい河毎ふしくる阪未れ紫れ
ふこれ葉のちる庇なる谷の屋
木の葉をや苔れ衣乃ようれ　久定
茶ニなうう紅葉乃ちる　利清
晴天れ毎や末れ紫の　宗富
空みそねりこみいま葉れ　久翁
十月い末の葉れ毎ち郎　知徳
　　弘永

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号　本別3-5
ガラス使用

雪紙も何ちうことも今ハ落葉哉　元清
松葉さへ名のみとなりて冬の町　定昌
青苔ハ木ノ葉の雨の日てうれし　正賀
うやまふ木こゝ落葉哉　大松子次良
栗ノ木の落葉寂寞たる　謙也
月ハ名ノミ風ハ幾重も落葉哉　蕪仙
風乃来ル音ハ雪ニもまさりけり　春行
雨ノ名残ハ雪ニこそまされ　定親
山風の吹やこゝ迄の木ノ葉猿　未来
蛛の巣ハ何ニ木ノ葉や吹るゝ猿　同
落葉のこゝ迄ハ来ぬ風のうさみ　常辰

泉ゟや来ル葉の音ハ川　松子
木の葉こそ一ツ二ツかつく一町雨　政之
雨とやり木の葉哀れや山道ハ木の葉こゝろもなし　家雅
雨風ニ化する木の葉ハ天狗哉　奥玄
浦沼のまるゝ雨まで木ノ葉哉　昌房
木の葉ちるやちるまく仙家乃雪の夕　主圃

寒草　付柏葉

冬咲ハ何ノ種のこゝろ哉　同
冬柏のあるじもこゝろ小松哉　松子
菊乃露や菊乃露　同

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号　本別3-5
ガラス使用

うま神さく八日すま厨ろ鮫
業乃湯煮やたそんのそと水仙花
雪ろえそれうあるねうみ仙の妻
嗅氣して志いうれめろや萩の色

霜

石すへ紙はうくたつろや雲ろう　嶺利
山窓や尾上の雲れもよりぬ　重頼
雲北花のこりといい星乃ろうか　親平
雲ろうろうりとやうねの髪　立圃
光陰の矢よたまうして雲れて　家壽
　　良徳
　　同
　　信元
　　栄員

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

志ろまきそそ名有やろれ雲ろう　重成
愛ろ飛乃雲や俗名のれ雲　定成
雲北日紙志ろ志ろ雁ろ雲ろう雁　弘永
町ろや雲八化てろや滝めろ志　遊石
鐘ろ雲天地和合ののうか　松尾弘次
これそ種末曉ろうろうろ雲ろう　良盛
袁ろ志堀ろりろすくと曉　池田政成
堀て渕をうりろ雲衆の水ろ飛　和列親則
志ろろ志ろけろ雲や雲桂　大坂冬員
曉乃雲八桂女うろ三井九郎　智詮
町みをろうろ雲や形古圭　素言

雪

ゆきやゆき雪やゆき雪の花さくや 同
ゆきやゆき雪やゆき雪の花さくや 同

雪

ゆきやゆき雪やゆき孤
尾を泊しめしらも白鷺よ雪
白鷺よまつやさぎ雪はみて
鷺鷥しわらそ雪のけたる
春景野の雪うつり富乃山 徳元
初雪とこれもいふ 同
煙みもてまもる白富士の雪 同
ゆきやゆき雪やゆき乃境山 同

ゆきやゆき雪やゆき乃秀つ峯の琴 同
うち付けし海月雪の真砂うみ 信盛
根継く杉のほらうち雪相 松寿
日のおもいとまもる雪花 重房
ゆきやゆき雪やゆき月うらら 昌房
山月ゆみそれ雪うら 重圓
ゆきやゆき雪や寝年ふるうち雪冬 同
うちきの神ゆきわう雪うら 同
大地より涌おぶくし雪うち 同
うち紀乃橋くねなりうち雪相 同
髪もさゆきやゆきやゆき雪の松 同

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

おくれの雪遅く
きし夜の秋風や六月の雪
富士ばかり一雪乃山
すゝりてゆくへを雪ふじ
山姫のもつ雪ぢうふ
雪い寒天乃あさ
滝雪や雪ぬ衣乃ぬそて綿
田子ぬ浦弁当出く富士乃雪
とうとく着才
雪い綿ぬりおけ
雪やものあいそ
雪ふる富士乃雪

同
同
皇徳
同
同
重頼
同
同
幸和
同
同
同

ゆうべの月とうとう庭ぬ雪
姫松乃いろく月
雪ふる雪やうふ
雪ふる雪ぬ庭ぬ
りう雪ぶしうふ
ふる雪やうふ
松笠や雪ぬ未屋うふ
ふるきそとぬ雪乃
ふるきそとぬ雪乃
松木とうかさうふ
滝雪や男松ぬ
大雪ふる雪ぬ
ふるくれ蓑かさ
ふるやうふ

一明
照皇
長吉
信陸
成重
至一
晨春
家次
吉久
三直
家次

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号　本別3-5

ガラス使用

いかにとも見かさの雪や芭蕉布　當直
天竺も同乃ふもとや雪乃山　親光
出羽うや白くなるまで雪丸哉　正直
おもひきやとすうの雪乃重　同
綿小針ほつくり心う雪乃宿　同
三囲の下こそうれしや富士の雪　弘永
こゝ也乃雪や降ても積ても　同
八えもれうの添雪や白蓮花　重吉
白鷺や雪丸宿　宿
物ごとにうつくしいとも初の雪　正信
うき末もや花咲笑のう雪霰

定春　水神や同一体や雪ほとけ
意敬　天そこもとすうそを雪かとも
可勝　ゆりつるや丈六尺乃雪佛
盛親　かきこれてありうるや雪と雲
元俊　一てんのくぼさ山丸雪
正式　余のふもや雪丸富士丸雪
延貢　白鷺も雪ふくれ養老乃滝
道三　滝のこゝハ白ふ丸屏風乃
一滿　ふもとや絶てて雪山
住吉 利信
一香

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

利當
重雅
行上
後置
光方
信豊
養節
玄札
一通
一武
良臧
成元
清等

留古の雪と家つゝ桂男子共京
馬をそれ始もや雪乃道ふ人
そ新ふるかゝりの深ふる宮の雪
ふりかゝる帷子雪やさか山
御はもの雪まや松をうくれ竪
朝うらさうらいぬ乃むれの花
なりうや雪ふうしも爲
章ほうし女の袖ふ雪乃雪
小宮や針てあけ今朝の雪
衣い廉子をハ白糸ふしの雪
ましまなる十方佛ふ雪佛

廣寧
夕翁
重成
清讃
景久
貞負
年光
琴女
玄隆
正長
重房

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

重良
重い
季貞
知徳
利安
高敦
平重
茂昭
正辰
家政
重利

元隣
直侯
宇教文 由的
教次
武英
津田 紹意
嵩城在
秀生
建ア 重武
学原 忠次
林 家甫

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

雪に今朝ふる年の庭
名ある色とおいぬる松の緑
なくく世や雪ふんこえる山路のこゝろか
雪ふりしきる竹の外面
雪ふりしきる竹の外面
雪ふりしきる竹の外面

白玉の紛ふそともみく雪ふり
松みさほのよれ乃花
雪ふれハ羽白となるもの鳥
天ふくや花う一ふ雪乃ふり　　九定
我ふの雪ふうみそ白うそれ　　重良
笑ふへ乃心とひふへうわれ松乃雪　　同
山里神の雪ふれ巻の雪　　親信
降なるは粽うもふへうわれ　　方女
吹わふ風ふや雪のうふ花　　同
雪ふもふ寄や白ふ花　　順三
大雪の山をにつまるハ小鳥う那　　清女
　　吉定
　　同

菊屋乃雪孫　　方孝
山神や雪にあふ乃雪女　　宗雅
同れふうふやまふめて雪こう　　同
一ふるハ花ふうふ乃花　　同
望ふふき紅梅や富士ふ雪　　来安
わハ雪ふ一ふ巻のふ心　　泰重
雪ハ玉富士や日ふのふ和　　整
姫竈の雪や乃花　　同
尾ふ川や稲ハうふ花　　同
雪乃景富士や歩一日なんぴ橋
紅尾ふふふふ富士の雪　　同

国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5
ガラス使用

雪ふり招(まね)くと梢(こずえ)をや
同
雪ふりて言ふ人のふるさとや六(むつ)のふる
有哉
雪ふりて山の心乃(の)松や雪ふり枝(えだ)
儘
雪ふりて一統(いっとう)の天下やうつくしき雪乃いろ
同
雪ふりてあしたの雪やいくたびそれと雪ふみ
同
雪ふりて心(こころ)折(おれ)や一(ひと)ふしもあり
同
雪ふりて富士山の雪をそろめやれ折(おり)
栄言
雪ふりて童部(わらべ)れうそく車(くるま)うち雪もあわ
同
雪ふりて入(いり)くる雪形(ゆきがた)や行(ゆく)うしみ
曾古
雪ふりて奇(く)しき持小貴(もちこうとき)き山(やま)よ雪の富士
賛
雪ふりて雪をつもれて一月富士ぬ雪
同

逆(さか)さまに雪ふり山(やま)や逆(さか)さまり
同
雪ふりて月ふみそ影(かげ)や変(かわ)して雪女
同
雪ふりて白屋(しらや)や雪ぬさりうち園(その)乃友(とも)
常辰
雪ふりて天(あま)と雪やをうれぬまで富士(ふじ)の花(はな)
同
雪ふりて雪乃富士(ふじ)や富士(ふじ)の山(やま)
同
雪ふりてまよふや雪乃三田忌(みたき)
同
雪ふりて雪ふり雪や雪ふり拳(こぶし)
昌房
雪ふりて夏(なつ)ハうき雪ぬさりうち雪仏(ほとけ)
同
雪ふりて雪ハ秋地(あきち)ハ白屋(しらや)よ雪乃道
同
甲斐(かい)なくて甲斐(かい)なき雪もまよふ雪
同
同小梅(こばい)を小仏(こぼとけ)のえだや富士ぬ雪仏(ゆきぼとけ)
同

国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5
ガラス使用

白雪のうちや富士の三つ
富士山乃雪やすそ野の
色葱それなりに
天人や雪ゆきたる
雪花と雪のみまや
八えその富士の根いろ
ひとの仇せなり
雪乃

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

霰

雪ふりかゝる酒の酔
雪ゆきかゝる酒
光有
圖

霰

塵ほこりかゝる放下乃玉われ
玉ぼうも泪ふるう
あられこぼしなす野の霰れ
ま丸内てうちや御の玉ぼうま
水晶と参やわれのあ
空うち散なるまゝ八風
ま玉う郎
ま作と入る天れんぼう
酒

宗祐
貞徳
同
慶哉
信元
元清
宗房

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

むろまにきゆるあられやむよの庭　元清

まんなかを玉ゐる氷ありあけの　荻村久忠

月内てうする家や水れ前　智鏡

水うつろひうれしさて寝てすみうさ　正依

咲とおもわれや実桂雪乃花　立女

末の栄うつろひまの天狗つそき　同

面白しろとわ後ろたまわるま　立園

釜ハひゞれとも河豚ふく湯うふ　同　秋武

氷

川つらい千投ちれ
一ぬ身海さへ氷ると飛
ちまれ家と殊数の歩うふ
落氷ちれはら
岩ちれはら
落氷とみひい飛
氷ち飛池を焼村
ち埴ち秋とみさする歩うふ
簀にさへ水とも氷ちれ
古川ちや学歩
秘ひちれ氷ちれ下

當直
貞徳
徳元
嘉徳
可均
光有
秋廣
貞堂
忠重
重俊

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

名水雌雄水の汐汲や醤入をせぬまもこ川　宗清

歌書や墨といふ人多面読　一重

教生と歩のともなひ川を舟　重次

常法のかみ歩多を丸水　秋月

かてくいなみられを立田川　随巴

玉眼の文珠ろこそ川口　之育

波乃紋分ろ池のこ　政良

とうれも氷乃剣や　改隼 重次

水神も閑ぬ　熟武

養法ろ汗の泥れ　嶺利

蟹穴の道ましせる歩れ　同

をそ穴ろ氷乃　宗雅

とそれもわろ歩多玉のろ　清下

名みろく地ろまる　立園

名水ろてふ歩　同

激の糸ぬましをひかする氷れ　同

絶乃歌石ふろ川流ろ　同

水鳥

筒歩ふひかあろ　文英

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号　本別3-5

ガラス使用

淡路の通ひや須磨の関守の
京より田舎のかうにや郭公
ひと声なきてやまとや磐の
うら波なごやかにひろき湊千鳥
水もや澄み潮風かをりて沖つ波
一とむらあをや千里の浜ちどり
栄とまとなるまつや中ぞらや
むら雨のやや俄にくもるかと
芦間も澄み海とろ〳〵
うらうらと磐やあをやかに
うんわれ水

徳元
重頼
良徳
宗朋
秀重
皇室
一入
有也
徳窓
忠田
云奚

雑波うちみだれ来鴨のうき
月のおもやかにあをや一羣れ鳥
浪枕してこそ寝ぬる浮寝鳥
音そへてくるいつまでも
越川を渡るらん
水鳥のらく舟やかもめ
波のうきにのるやよ鳥乃
鷺丸同みどり孫黄
多多の羽風や波のうき
鴨なくてタ日の浜やおのうら
水多のまゝ羽まで
波乃花

幸和
玄旦
平重
定行
廣幸
知徳
同
泰極
娶
重澄
山口
後久

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

立波のう稼ぎもするや磐代
高浪も寄せとどろくも哀れ
警鷲も子を思わまもるの
もろもろの家やこもりのあけくみ
友千鳥中よ紀や稼ぐのあけおそ波
ゆく水も救うく鴨の
うい波よりなくねや泊の
もろ舟や一河のなごれなる鳥
わりもとろくや酒のなちとる
水鳥とゆきわくるや磯のうみ
もみもろ女鳥男もろやなごの

塵哉
友静
奏貢
同
定親
同
同
言
信世
挙
政之

浪雪ういつもう長閑羽白鴨
水鳥も波るの海士れ赤うら
警の羽もたゝぬ歌のうれ
もろもろやそうもも
地ありくや翼をかくやなるも
もも鳥れまもろう磯乃浪
水鳥ぬくく日ようもれ雨りも
長沈もものもなり鴨れあ
年もろ乃綾そうもも
哀歌れもろやなるも

家雅
嶺利
重良
有哉
親信
立圃
同
同
同
同

国立国会図書館　タイトル『小町躍』 請求記号 本別3-5
ガラス使用

氷裏

細乃目代ゆく氷裏の鶴の口　有哉

細代

かいさみの浪やよせうまち　幸和

鷹

それゆくそ鶴ゝ二ゝ　宗明

鷲の尾も十二一重九かさりうれ　宗利

ひと鳥をえつけくく鷲ゝさうおく　勘川定義

あまそていとうそと鷲九鷲ゝ　糧田正春

よをうけてあるそ何ゝと鷹のゝ　林元

神樂

おもてゆさ神糸しめけうるか　至一

水神のかくらを報ゝ治乃ゝ　信元

祈ゝや雲井たゝる鷲九鷲ゝ　来元

行方ぞもろ八驛路ゝ鷲の矜　親安

教くうありそまる鷲九ゝ　信世

逸和やくそ鷲九ゝ　同

罪科のそれるハ鷲の雅れ　宗雅

逸物ハ何も鴨ゝ鷲九ゝ　同

逸和乃鷲や同なまし貝おゝし　立圃

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

狗子(ころこ)風(かぜ)於(お)や風の神(かみ)
秋の感(かん)やわれもさうへのさよ神楽(かぐら)

慶蔵
倭岸

冬月(ふゆのつき)

雪丸(ゆきまる)やおもふ事(こと)なき月と雪

一村

朧月(おぼろづき)の文字(もじ)さへ月のわすれ
雪(ゆき)をくだ雪(ゆき)をみよ月(つき)

芳昌

さむしろにきてみよ月(つき)の影(かげ)
ともしびもよし元(もと)日(ひ)や

吉保

月(つき)新(あら)たまるやうすもや

養嚢 吉久

童園

江戸 吉里

松風の汀(みぎわ)を照(てる)やうそ月(つき)影(かげ)
月影(つきかげ)やうわ雪(ゆき)の夜(よる)の月(つき)
墨(すみ)をめる十夜(じゅうや)の月(つき)や阿弥陀経(あみだきょう)

常辰
家雅
清卞

炭(すみ)

白すみはうそよ紙(かみ)衾(ぶすま)のたよりかな

非水 忠知

白すみやあるねむりも忘(わす)れ雪乃夜(よる)

教次

せつなるや一束(ひとたば)の炭(すみ)
さまざまな心(こころ)をたく炭火(すみび)かな

童頼

いろごとにもたかうまもあや沈丁炭(じんちょうずみ)

和平

白炭(しろずみ)よ孫(まご)子(こ)の為(ため)とて

童員

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

光の強いのをそろえていろり炭
焔よりおこりすみやかなるを
熟炭いたて火移すとき
車庇乃衣や火箸
垂炭を剔るのいろり炭
ものつぐ松の煙や池田炭
家うそ炉のもと火箱うしろ
炭すてそらす雨天狗の鼻うしろ
くろうんとだにいそがしまわる炭

一中 浅田 春良
我下
冨平
東良 舟越
親正 大坂
重寛
信垂
常康
立圃
同

炭竈やさなそら山乃ぬとこの火
同

埋火

火おこすくろうあるうしろ
炉の角のふいの炭
白きもおこれいの赤
死なそらは灰くろう掻よこて口の火
熟まるくろうそこにいろうて火
枠の本れ跡をもかくや焼火の間
赤火野も中ひなりをうろ大井
寝ようにも火おこすくろうれ

知徳
徳頌
来言
定清
愚道
乗行 大坂
家信

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

寝まれて雲のうへ
寒くにいをそわる犬猫の
まぢこの皮をもあつる犬狩られ
その毛くひ男にそひぬれば犬の猫小
まをあてゝ寒さを防ぐ犬狩る
ちさうや堀火とる墓所

郡山侘
蕪昌
有哉
未安
安言
常春

衾

うつほうを称よりけふんゆう雪ねうん
ちんそうでをつゝみうや綿ふを
ふゝや寝ぶすのもそ雪乃下

廣寧
可休
忠田

よい下に眠られる夢ふを

童昌

綿

わきんぬひてとうさする綿ふうん
打ふとうちいくるもの綿ふ外
小春ゆもこさそ始すう綿ふう外
みとうや綿そいつと就うろ

政談
金次
長之
常春
立圃

紙子 付頭巾

俺人のわうそたらまう綿ふう
まひわ雪庄令肌寒さ紙ふう外

笑
長知

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

ちきれさうな宿者を独も古紙子
とのつゝみおうとすれ共子ぶ
貧僧九郷子をのりかゝ
忘れさうなを肌と合てるあつれ

朝雲
信益
知徳
一笑

寒梅

餐すうやつゝ子ぶ乃梅二てうと
さくやこのいさゝみ玉梅

素言
季吟

冬営

冬九籾ふ入うらのとゞ守りかな

素嘲

嘗九ゝ忘乃ごとまん乃中

嵐雪

年忘

作のうちわんや年まれ
汲えやみ子志
ゆめ九おうへてみやま年志
盤得ゝ愚癡てやまつをと
先ゞをわゝ酒来や年まれ
わうよりひの人匂や
ゝよ九餐の酒ゝや春の年ゝを

貞圀
友徳
吉音
満道
ゝ九
昌房
ゝ園

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用

節分

暑いそと福いうちての小槌の赤
言ふの夜私の名を宝舟
くやいよ世の伊勢九女暑小
変てゐる毎々なくくの言
今宵暑月ふ主ゐ梅う赤
言ふれ私や物ふんの鳴くれ
暑汗とい松ふ童長
言今の大豆や春行
言ふれりくきハふて冬来う
う引言ハま免鉄砲うとにやも

葉和
知徳
則常
正勝
高笑月
重治
松童長
春行
富重
同

年内立春

年内の春や幼ふ卵屋住佐保姫子
知礼

歳暮

年の矢々的乃射わけう冬の言
まん春ハいつくも東ふまわう赤
ゆくまのうれ矢たつあんふ
もうなとふくい年々矢の松小
的ふゐまむや月日の嵐哉
まてくみこゆ乃業言ふ
月くれ見ゆまうこそうれ言

親直
良室
同
葉増
重方
家成
宗清

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

くやく年八天狗の矢羽うか
梟のくもるわしれ溝れ
雲とみよとうち鳴わ一ようさ
まなこみられわもの世かうか
大年やくて言てくの春
久せくいのとなる
かれなせ事年の言
手の矢大とみ連
まん雲と祢やた乃坂ひい
日星やいそそまの言
世欲なるんもおしやう言

楙盛
重頼
久任
負因
周元
大坂 季吟
泰重
大坂 友我
祐元
順三
ろん

賀札のなるる年
るみせかてねを涙
若彩やまねる年の言
賀をるかなるる
雲九日もめうや年九言

定親
同
常辰
同
立圃

雑冬

かる風八日九りてその雲ろれ
わるる八日ましくいるかる
秋把の花実一而り
みるるるお年九花ろれ

和
春

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

櫻

すくいきれ二階ハいうみのさハすく
山浦ハしへも冨ケ
はうね捲突ハ室ヤ
打ひふこそさむさうへの行衣
云ぬ筆やをう思ひ出ル庵
活の花もうつ咲ざきち
山窓や小ふねうつ
わうそ湯ぬふするうん弥
侍のなやふくく酒の壷ぬ
冬ぬもやいけてハ
の花ぬ雲

伊友 信尚
重頼
正重
賞芳
吉泰
常辰
嶺利
信世
立園
同

潜列 政義
大坂 次良
皇室
宗畔
季員
随口
長依
宗静
宗次

寝酒うな
ぬ夜のふんうや
涼ぎハうつけ
備後の渕ハうま
非薛ハ金剛夜双小ま
ぬうや雪の
小国ぬ雪ぬ程うや
ぬうそ小さうき
ぬすも暁うく
ものつうやう
ともかうも訪てうた

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5
ガラス使用

別 3
4
5

3.683

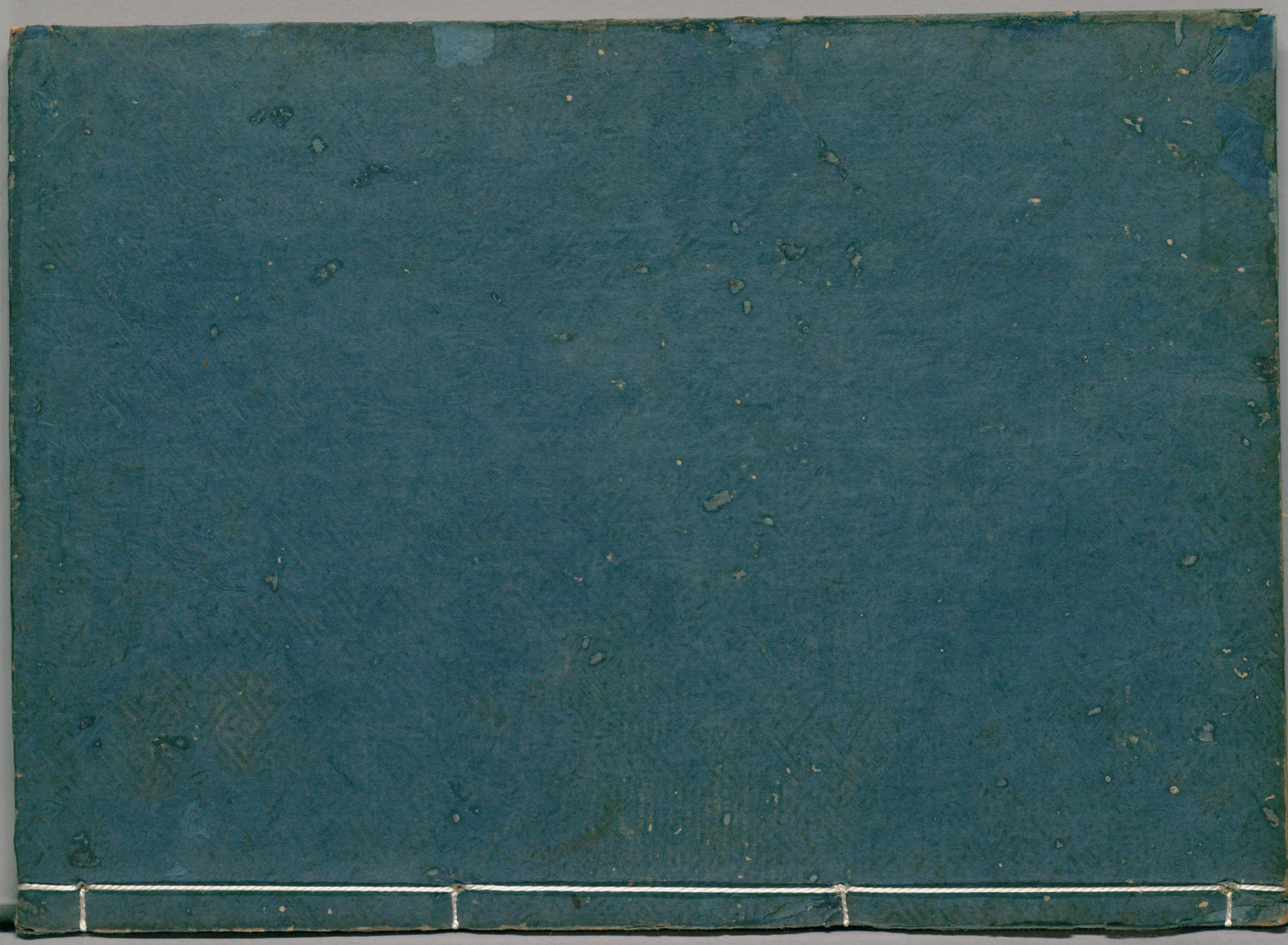
大正
13. 5. 14
購求

27.8.28

巣鴨文庫

国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『小町躍』　請求記号 本別3-5